

## IAEA インターンシップ参加報告

派遣期間：平成 19 年 9 月 23 日～12 月 16 日

派遣者：原子核工学専攻博士後期課程 1 年 龍崎 奏

派遣先：国際原子力機関 (IAEA)、ウィーン、オーストリア

COE-INES キャプテンシップ教育プログラムである「国際インターンシップ」に参加し、約 3 ヶ月間(平成 19 年 9 月 23 日～12 月 16 日)、国際原子力機関(IAEA: International Atomic Energy Agency)にて研修を行った。IAEA は、原子力の平和利用を促進し、軍事転用されないための保障措置の実施を行う国際機関であり、現在加盟国は 144 ヶ国にもなる。また、2005 年度のノーベル平和賞を Mohamed ElBaradei 事務局長とともに受賞した機関でもある。

私が配属された部署は、Department of Nuclear Science and Applications: Division of Physical and Chemical Science: Physics section であり、このセクションは加速器や研究炉、核融合などに関する国際会議を主催し、これらの分野における今後の方向性を IAEA の立場から指し示すことを主な仕事としている。私は Dr. S. Paranjpe 氏 (supervisor) 及び Dr. G. Mank 氏 (section head) の下、国際会議やセミナーに関する書類等の作成に携わった。主に私がやらせて頂いたことは、「International Conference on Research Reactors」という国際会議に関する書類作成や、参加者の予稿や発表スライド、会議スケジュールなどを閲覧出来る CD-ROM の作成であった。

始めに、会議内容でもある研究炉について論文や書籍などから勉強をし、その後は参加者から投稿された論文や参加者の個人情報の管理などを行った。それらのデータを管理するにあたり、LISA (Lightweight Interactive Storage Application) システムというオンラインアプリケーションを用いた。参加者はこの LISA システムを通して会議への参加申し込みや論文などの投稿を行い、同時に私は送られてきた論文に目を通し、トピック番号やキーワードなどを振り分ける作業を行った。また、これらの作業のかたわら LINUX 用の LISA システムのテストや、IAEA で行われた研究炉に関する研究会合にも参加させて頂き、世界中の専門家の方々から貴重なお話を伺う事が出来た。さらに、それらの研究会合の一環として Atom Institute, Vienna の研究炉の見学もさせて頂いた。会議終了後は、参加者の論文やスライドなどをまとめた配布用の CD-ROM を作成するため、html ファイルのプログラムを組んだ。この CD-ROM の作成にあたり、IAEA のコンサルタントの一色美緒様にご協力頂いた。

本インターンシッププログラムを通し、非常に多くのことを学ぶことが出来た。私が所属していたセクションは毎週木曜日に室内会議を行っており、ここでは各自が進捗状況を報告する。また、セクションのスタッフ全員で「セクションのよりよい発展のためには」という議題について丸一日会議を行ったこともあり、これらの会議は私にとって英語力を伸ばす絶好の機会であった。また、様々な国のスタッフがいる中で、そういった組織をまとめ上げる section head のリーダー性を肌を感じる事が出来たことも、大変貴重であった。

一方、仕事以外では他の国から来ているインターンの学生と交流することもあり、色々な文化を学べると同時に世界中に知り合いができた事もこのインターン生活を語る上では欠かせない事である。さらに、事務局長の ElBaradei 氏と対談できたことは、何事にも変えがたい経験であった。

私生活では、初めての海外、初めての一人暮らしであった事もあり、毎日が本当に新鮮であった。音楽の都と言われるだけのことはあり、ウィーン市内では気軽に音楽鑑賞をすることができ、また路上演奏においても度々感動することがあった。また、歴史ある町並みや教会などにも率直に感動を覚えた。しかし一方で、逆に日本の素晴らしさも改めて感じる事も多々あり、日本人は日本人らしくすることが最も国際的なのではないかと思うこともあった。

最後に、このような素晴らしい 3 ヶ月間を過ごさせて頂き、関係者の方々に心より感謝申し上げます。特に S. Paranjpe 氏を始め IAEA の physics section の皆様、齊藤先生、山野先生、尾上先生を始めとした本学の関係者の方々に御礼申し上げます。また、公私共々大変お世話になりました、一色美緒様に感謝致します。



写真 1 Atom Institute, Vienna の研究炉



写真 2 Physics section 一同と筆者  
(左から 3 番目 : Dr. Mank, 右端 : Dr. Paranjpe)



写真 3 ウィーンの町並み